

「まちづくり提案事業助成」助成決定事業の概要(上町台地マイルドHOPEゾーン事業)

団体名	一茶菴宗家
代表者名	佃 一輝
事業のテーマ・タイトル	文人趣味の世界を知る(煎茶文人サロンと親学(食育教育)を柱に)
主旨	①上町台地で育てられた歴史的伝統を持つ文化(煎茶文人趣味)を、若い世代(今回は子育て中の世代)に伝えたい。 ②子育て支援活動の一端となる立場から、子育て中の母親の「いい」の場となるとともに、次世代を支える人格を育てる場として開催していく。
内容	①各月の伝統行事や習慣を学びながら、「みずからたのしむ(自娛)」世界を共有する。 ②煎茶文人趣味を体験する。 ③季節の料理を紹介し、食材のあつかいを具体的に学ぶ。食事作法や器のあつかいなども学ぶ。 場所:一茶菴宗家茶室(200年前の蔵)・厨房など 日時:毎日第3金曜日 AM10:30~13:00 (予定)

団体名	空堀子どもまちづくりの会
代表者名	森本 純一
事業のテーマ・タイトル	空堀子どもまちづくり-みんなで考える空堀の魅力-
主旨	空堀地区は昔からの長屋や路地が残っており、他の地区とは異なったまちの風景を持つ。本事業の目的は歴史的風景を含むまちの様子やどのように変化して現在に至っているのかを、実際のまちに触れながら子どもたちが学習することにある。模型を使いながら検討するなど様々な角度で自分たちの住む地域の魅力を知り、その魅力を子どもたちの手で発信する。まちの魅力を見つける活動を通じて子どもたちが地域に対し関心を持ち、将来の地域の担い手となることも期待している。 またこの活動により地域の人々が自分の住む空堀地区の魅力に気づき、より良い地域環境の創造につながることを目指している。
内容	自分の住むまちの魅力を時代の間わずに発見することを目標にして下記の活動を行う。 ①古い地図を用いてまちを歩き、時代の中で変化した部分を見つける ②まちの空間要素である路地を模型を使って考える ③からほりまちアートイベントに参加者の作品出展 ④まちの魅力を考えるワークショップ ⑤作品展示会の開催 空堀地区やその周辺に住む小学生を対象に実施し、参加者の家族をはじめとした多くの地域の方々との交流を交えながら、活動を展開する。活動場所は桃園会館とし、作品展示会は空堀商店街内とすることで、参加者や地域住民にわかりやすくするものとする。また11月に開催される「からほりまちアート」に出展し、空堀地区内外に活動を広く知らしめるとともに、多くの方に子どもの作品を交えながら意見をいただき、地域への関心が子どもから大人へ伝播できるものとする。

団体名	NPO 後悔しない家造りネットワーク <いい家塾>
代表者名	釜中 明
事業のテーマ・タイトル	「上町台地 庭から考える都市居住」～なにわのエエ庭みつけた～
主旨	一口に「庭」と言っても、寺社仏閣の庭園、長屋の坪庭、屋上庭園、コミュニティガーデンや家庭菜園など多岐にわたります。いろいろな庭がそれぞれ違う役割を果たしています。名所としての庭園や、居住者の安らぎの場、また緑化や憩いの場所としての意味も持っています。建物はもちろん大事ですが、魅力ある庭はその建物にさらに愛着を持たせます。そして寺社仏閣などの大きな庭の空間は災害時に地域の住民に安心を与える避難場所としても利用されます。都市部に現存する様々な魅力ある庭を紹介し、地域コミュニティに与える影響や、居住の形を学びます。 今回は、上町台地マイルドHOPEゾーン協議会の会員である「四天王寺」で開催いたします。パネリストには同じく会員の「あいね 谷町9丁目店」の原いね子氏を迎えました。 会員同士が連携、連帯することで絆を深め、それぞれの良い部分を広く発信するイベントにいたします。今後の上町台地マイルドHOPEゾーン協議会の発展の一助になることを狙いとしております。
内容	庭に関連する専門家を講師に迎え、基調講演と参加者を交えてのパネルディスカッション形式の勉強会を開催します。定員は50名(目標100名)。講師には庭舎MAKIOKA主宰 牧岡一生氏、都心で自然との共生を実践する あいね 原いね子氏、一級建築士 吉田公彦氏、コーディネーターにいい家塾 釜中明。スライドでは各講師が関係する庭の紹介と上町台地の魅力的な庭を写します。(四天王寺、慶沢園、屋上庭園、坪庭etc)当日は案内マップを作成して参加者に配布いたします。勉強会終了後に四天王寺の庭園の案内を開催いたします。わざわざ京都まで行かなくても、近所に良い庭があるという事を紹介いたします。 参加費は無料としますが、当日は木戸銭箱を設置いたします。 参加者が妥当と思った金額を寄付していただきます。集まった金額は会場である四天王寺へのお賽銭と、謝礼金の出ない講師へのお車代といたします。

団体名	NPO法人 天王寺21協議会
代表者名	熊谷 晃一
事業のテーマ・タイトル	「大阪 心の百景」ぼんぼり展
主旨	都心の夏の宵に「大阪 心の百景」をテーマにぼんぼり展を開催。本年 大阪府の「光」のページェントに呼応する形で広く一般より公募。懐かしい大阪の風景、行事などをモチーフに描いて頂きぼんぼり(ボックス形)を作成、夏の夜のひとときを、心の癒し・心の触れ合いの場として天王寺公園(慶沢園)・生國魂神社庭園で開催。作品100~200点を展示予定。
内容	前年度の「天王寺動物園」をテーマにした第7回絵てがみコンクール、13回を数えた「大阪を描こう展」共に非常な反響を呼び、出品点数もこれまでの1.5倍から2倍と大きく伸び、大きく変貌する動物園や、動物達とのふれあいを、豊かに暖かく描いた作品群に参観者はいたく感動されました。それらの路線上に今回のぼんぼり展が浮上したものです。

団体名	なにわ人形フェスティバル運営委員会
代表者名	菅原 昭
事業のテーマ・タイトル	大阪の陣問答
主旨	大阪の陣の舞台となった天王寺公園茶臼山、一心寺、安居神社ですが、ここが冬、夏の陣の重要な地域であり、全国区の名所・旧跡であるにもかかわらず、大阪の地元人ですら「大阪の陣」について詳しいことが知られていないのが現状です。そこで、この名所・旧跡であるこの地域の歴史を見直すとともに、もっと多くの人にこの地域を知ってもらい観光資源として見直す。
内容	1614、15年大阪の陣についての基本的な史実や「難波戦記」などの内容を劇や講談、解説により、臨場感豊かに表現できる作品を創造し、その内容を大阪府民またはそれ以外の歴史ファンに呼び掛け、この場所に来てもらう。また最後に「大阪の陣問答」というテストで、どれだけ理解したかを検証する。 当日は本陣などで食べていた弁当なども再現したり、天下餅などを実際について、販売もする予定である。

団体名	UEMACHI おもしろ伝統野菜プロジェクト
代表者名	山村 勝平
事業のテーマ・タイトル	なにわ伝統野菜の魅力を上町台地から広げよう。 ～伝統×野菜×若者 上町台地の新たな魅力発見！！～
主旨	上町台地を代表するなにわ伝統野菜を上町台地から普及することにより、大阪の文化のにぎわい、上町台地の活性化を目的とする。 また、農家として活躍している若者たちが、消費者と直に関われる接点をつくること、表現者の若者たちがアートを通して若者たちを巻き込み、街の活性化に関わるイベントにしたい。
内容	●上町台地におけるなにわ伝統野菜、玉造黒門越瓜、天王寺蕪を、上町大地から普及していくために、野菜市を開催する。 なにわ伝統野菜をテーマにしぼり、地元、生産者、消費者がお互い同士の顔が見える状況で交流を深めあうことができる。 地域のつながりを強固にすることによって、安全で安心なまちづくり、文化の花ひらく和やかなまちづくりをめざしていきたい。 大阪あそ歩のプロデューサーによる大阪の文化や歴史おもしろ秘話などのコーナーも設置する。 ●伝統×若者 というスタイルを形成するために、若手農家による出展ブースを取り入れたい。 大阪府内にいる数名の若手農家にそれぞれの野菜への思いなどを発信してもらい機会を設定する。 また、表現者のタマゴいえるような若者、アートを通じて表現を行う若者たちのブース出展も行い、若者が集まれる仕掛けを準備する。 そこから交流が生まれることによって地域と若者たちとの交流の接点としての街をプロデュースする。 ●おもしろ野菜市 単に野菜を売るだけでなく、農家と談話できる「農家フェ」イイ男たちだけで野菜を販売するイケイチなど、おもしろ企画を実行する。

団体名	NPO(市民団体) OSAKAゆめネット
代表者名	下田 三七男
事業のテーマ・タイトル	難波宮で学ぶ！遊ぶ！体験する！&キャラクター制作
主旨	大阪市中央区法円坂にある難波史跡公園は、古い歴史をもつ古代都市大阪の象徴として貴重な遺産として存在する。しかし、まだ広く一般に知れ渡っていないとはいえない。この事業をとおして、地域や歴史ファンのつながりが深まり、難波宮の知識が深まることが期待される。 今年度は、地域団体や自然環境団体などにも参加を呼びかけ、史跡公園の緑や昆虫を発見するなどの新しい試みを行い、新しい枠組みの仲間作りと交流に寄与する。 参加型、ワークショップ形式を取り入れ、大人も子どもも楽しく学び、ふれあうこととし、次世代を担う子どもたちを育み、地域社会全体へ大きく貢献したいと考える。 難波宮のキャラクターを公募、決定後着ぐるみを制作し発表することで、子供たちの関心を呼びたいと考えている。 毎年継続することで定着を目指す。
内容	7月28日を「なにわの日」と称し、「難波宮で学ぶ！遊ぶ！体験する！」をテーマに下記の催しを行う。 ①なにわの宮キャラクターを一般に公募、決定後着ぐるみを制作する。 チラシに申込用紙を刷り込み、難波宮フェスタで一般参加者に投票してもらう。決定後、着ぐるみを制作、発表する。 ②7月28日(火曜日) 午後4時から午後7時 場 所 難波宮史跡公園 活用する箇所 西側一帯 内 容 テントで下記の3つのコーナーを設ける。 1. 「もっと知りたい難波宮」をテーマに、歴史の説明やミニツアーを随時行う。 2. 「古代の仕事体験」コーナーでは、「縄文の織りでミサガ」等手作りやクイズ形式で様々な体験を行う。 3. 「交流」コーナーでは、音楽演奏、人形劇等、芸術・文化に触れる。 ③なにわの日前々夜祭 *講演会「難波宮と古代の難波」 平成21年7月26日(日曜日) 午前10時から12時 場 所 大阪歴史博物館 講堂 *演奏、体験 午後1時から2時30分 場 所 大阪歴史博物館 1階エントランスホール 出 演 十三堂楽坊 *NHK 下石組み遺構特別公開 午後2時から4時

団体名	NPO法人大阪ワッソ文化交流協会
代表者名	猪熊 兼勝
事業のテーマ・タイトル	四天王寺ワッソアカデミー
主旨	上町台地が古代国際交流の中心地で、歴史的に意義深い地であることを、古代東アジアと大阪との交流の再現現代に相応しい交流の促進を目的とする「四天王寺ワッソ」への参加・協力や観覧を通じて伝承する。
内容	・四天王寺ワッソ参加者(楽隊、舞、巡行、企画・運営)を募集 (募集方法:高等学校を中心に専門学校等を含め161校にポスター・チラシ配布。一般には公共機関でのポスター掲示とホームページにて) ・四天王寺ワッソパレード演奏の稽古、および運営協力内容説明会に際して、当地(上町台地)の古代交流史と歴史意義のレクチャーを行う。 ・出演、協力の内容に応じた練習やミーティングを実施する。 ・四天王寺ワッソの開催会場で、観覧者(3万人)に対して、上町台地の歴史的意義を広報する。(チラシ、プログラム内のアナウンス) ・雨天の場合は、四天王寺ワッソアカデミー発表会を室内で開催する。

団体名	「からほり新聞」制作チーム
代表者名	永井 佳子
事業のテーマ・タイトル	つたえたい文化「暮らしをつなぐ講座と絵本づくり」
主旨	歴史的・文化的な財産の多い上町台地には、その魅力を知る多くの人たちが居住しています。私たちは、2002年から空堀地区を拠点に賑わい創出を願って「からほり新聞」を発行する中で、文化の担い手として活躍する人たちと出会い、情報を地域内外へ発信してきました。最近では、ただ生活の場だけでなく、地域が培ってきた文化を楽しみながら、生活の豊かさを求める声も上がってきました。 そのため私たちは、新聞の発行を通じて出会った人たちの想いを地域の人と分かち合える講座という形で伝えていきます。そして、空堀の魅力である「食」「まちなみ」「歴史」「人情」を子供からお年寄りまで見て感じていただけるような絵本を作り、文化を次世代に残して生きたいと考えています。
内容	<input type="checkbox"/> 定期的なまちづくり講座の開催(地域の魅力を共有) ・生活編:長屋暮らしの知恵 ・散策編:隠れた見所の発信 ・歴史編:次世代に伝えたい昔話 ・その他:作家、演劇家 <input type="checkbox"/> からほり新聞の作成・発行(定期刊行物、第16号3000部) ・様々な分野、年齢層から見た空堀の魅力を発信する <input type="checkbox"/> 絵本の作成・発行(子供からお年寄りまで想いを繋げる) ・挿絵を地域に暮らす作家さん数名に依頼し、講座のテーマに沿った絵本を作成する ・10月末の「空堀まちアート(予定)」に合わせ、絵本の配布を行う ・関係機関、関係者に配布 ※講座出演者、絵本作家リスト(予定) たなかやすこさん:昔話や、生まれ育った空堀の思い出、戦争体験等を語っています。 水尻みちさん:長屋暮らしの知恵を駆使して、住みやすい空間づくりを行っています。 千万多津子さん:大阪の歴史を中心にまち案内を15年間続けています。

団体名	日本学生支援機構 大阪日本語教育センター
代表者名	磯田 郁子
事業のテーマ・タイトル	留学生と遊ぼう! 国自慢カルタとり大会
主旨	現在、日本の小学校では国際理解教育の推進が進められ、さまざまな場面で外国の文化や習慣を知るチャンスが求められている。本センターには世界30数カ国の国・地域の留学生が学んでいる。その留学生たちと直にふれあいながら、かるたという日本の昔からある遊びを通じて、上町台地の地域の小学生たちが外国に対して興味を持つきっかけ作りとする。また留学生には日本の子供たちと触れ合う中で日本の文化を知ってもらう。
内容	あらかじめ留学生に自国の文化や特徴をかるたの読み札に読んでもらう。その読み札を地域の小学校などに依頼し、その内容に合った絵を描いてもらい取り札にする。そのかるたを数組作成し、巨大かるた大会を開催する。その大会には読み札を作成してくれた近隣の小学生を中心に地域の子供たちに広く参加を呼びかける。当日はいくつかのグループを作り、かるたを楽しみながらその国の文化や習慣を話し合う。

団体名	からほり倶楽部(空堀商店街界限長屋再生プロジェクト)
代表者名	六波羅 雅一
事業のテーマ・タイトル	ロジモク減災第2章～地域とともに考える手立ての獲得
主旨	空堀商店街界限は路地と長屋のまちとして広く知られ、親しまれるようになりましたが、一方で地震や火災などに脆弱な一面も持ち合わせています。しかし、土地や建物の所有関係が錯綜し、空き長屋やワンルーム・マンションの増加などにより地域コミュニティの希薄化も進むなか、防災・減災に向けた取り組みは遅れがちでもあります。 近年、上町断層の存在が大きく取り上げられるなか、その直上に位置する空堀商店街界限でも地域住民の防災・減災への関心が高まってきました。また、からほり倶楽部の活動も9年の時を経て、地域とのつながりも拡充してきました。この機に防災・減災への取り組みを立ち上げ、地域との信頼関係を一層増しつつ、じわりと着実に空堀商店街界限での防災・減災への人的・面的な広がりを図っていくこととし、平成20年度から『ロジモク減災』と名付けた防災・減災の事業展開をはじめました。 『ロジモク減災』では、まずは3年の時間を掛けながら、防災・減災に取り組んでいくための人的ネットワークづくり、そして防災・減災に関する最新知識の吸収・共有を目指します。その2年目は「第2章」として、昨年度に引き続き、地域に息長く関わっていくための協働者の掘り起こしと獲得、オープン開催の勉強会を通じた知識の共有を行うとともに、防災マップづくりなど面的な取り組み可能性の探究も慎重に進めていきます。
内容	2年目「第2章」では以下の取り組みを行います。 『楽しみ考える減災ゲーム・クロスロード大会』 「上町台地・学園サミット」を通じて関係を広め、深めつつある近隣高校教職員、まちづくりをサポートしていただいている大学とともに、コミュニケーション・ゲームを通じて災害時の思考を学ぶ「減災ゲーム」を実施します。実際の災害時に救援者が対応に苦慮・苦悩した事例にもとづいて作られた「クロスロード」を行い、当事者感覚を養います。 大学生・大学院生とともに教職員が担当する部活動などを通じて、家庭や地域とのつながりが薄れはじめる高校生の参画も図ることで、地域への関心の持続を狙うほか、次年度以降に地域で減災ゲームを展開していく際の進行役やサポーターを確保します。 『ロジモク減災勉強会』 昨年度に引き続き勉強会を継続展開します。勉強会では災害や防災に関する基礎知識を学ぶとともに、広く地域住民等への学びの機会の提供を意識しながら、分かりやすい内容や講師陣の獲得も図っていきます。また、上町断層の現地視察など、本年度は室内だけに留まらない実地勉強会も試行します。 『被災地・神戸との交流事業「神戸長田聞き歩きツアー」』 震災から14年の時が経つ身近な被災地・神戸長田地区。今年1月にロジモク減災勉強会として現地を訪れ、復興の様子を見るとともに、住民や専門家と直接対話する機会を得ることが出来ました。また、大きな被害を免れた木造密集地区を訪問することも出来、空堀商店街界限での防災・減災を考えていくうえで、大きな示唆を得ることも出来ました。本年も引き続き神戸長田地区を訪れ、交流を深めることで、より根幹な課題を知り、ロジモク減災の次の展開を具体的に検討していくためのヒントを得たいと考えます。 『全国路地サミット』への参加 今秋神戸で開催されます「全国路地サミット」には、昨年度のロジモク減災で訪問した墨田区向島地区や文京区根津・千駄木地区、そして地元神戸長田地区など多くの関係者が参集します。からほり倶楽部もロジモク減災としてサミットに参画することで、関係者との交流をさらに深めるとともに、路地のまちでの防災・減災に向けた情報交換を行い、ともに取り組んでいくつながりを構築します。